
デスレス
4
FOUR
六道神士
Rikudou Koushi
DEATHLESS
YOUNG KING COMICS



スー
ミシッ
キキ…
キキキ‥
ギャッ
キィ




第二十五話
おちつきのないひとたち



グググ
このような未明に何用か
ファァ
お早うございます お姉様
寝起きのお姿も淫らに扇情的で秋葉はとても嬉しいのです
ググ…
朝の伽なぞいかがでしょう
……
吾は別にかまわぬが あいにくミズキ殿は未通での


バワーッ
未通!?
Virginity
約定により勝手はできんのだ
房事ならば他をあたれ
ポイ
バタン
わかりました
クスクス
では他へ――
ドサッ
やれおかしな奴よ
ミズキ殿も危機意識が足りぬというか…
ファァ
クスー


――ミズキです
なんだか色々重たい事情ができちゃいましたけどなんか現状ウヤムヤなんで気にしない事にしました
とりあえずこの夏休みの予定はアルバイトで免許資金を貯めて夏期講習で単位に余裕を作ることです
あれぇ姐様
パタ
パタ
お早うございまさりけりに
――このひとはカマドさん


おはよ カマドさん
ちょっと怖い ひとだけど…
朝から テンション 高いね…
はいなれば！
ご飯の美味しい居候と割り切って気にしないことにしました
朝から ごちそうで ありまして ござりました
ピカ～
？
なにが？
ごちそう？
パタパタ
わっ？
ふむ？
今日も朝から
もしや あの莫迦者
ウチは フツーです
スザク 顔洗おうよー
スタスタ
バタン


きゃーーっ!?
やはり
ホヘェ〜
はられ
姉様がこちらにゆずったと言いなりしたので食べてよきものなれと…
うむ面倒なのでこれは食うな
いけなかりしでございましたか?
ぱらいそ
あわわわわ



今日も朝から
平常運転です
タ
ン
。。。
いただきまーす
朝から
何かあったのかい？
カッ
カッ
カマドが
間違えて
秋葉を啄んだ
う～
サカナ…
カッ
カッ
初体験でした…
白磁のように
透き通る
カマドお姉様の
素肌と何もかもを
奪われるような
背徳の昂ぶり…
カッ


めくるめく体験だったのです
懲りない子だね 今日は延寿もいないし もう帰んな
まあお婆さま 秋葉がいてはお邪魔ですか？
事情は話したろ 人様んちの子を巻き込むのはご免だよ
怖かないのかい 現にアンタは喰われかけたんだよ？
秋葉は延寿様への愛があれば美しいお姉様の艶姿など怖くないのです！
むしろカモン
意味がわからない…
延寿お爺ちゃんが好きならなんで浮気すんの？
延寿様とは純粋で崇高な愛でつながっていますが
お姉様方とは肉欲でつながりたいのです！
合体
無邪気な顔で最低なこと断言されても
TSU・NA・GA・RI・TA・I！



バタバタ
うわもう
こんな時間？
ご馳走様！
バタバタ
今日は
学校！
バイトかい
お姉様も
お出かけですか
寂しいのです
だったら
帰んな
延寿様も御用で
お出かけ…
ということは
お楽しみは…
はてら～
なにぞ
ありかれし？
なんでも
ないのでぇす
うふふふ
学習☆
ハク
ハク


ミーン ミーン
ミーン
よかったー
出席できた
やれやれ…狙われておるかもしれぬという時に学舎通いとは暢気だの
ミーン
ミーン ミーン
客員教授の憲法の授業…一週間で単位もらえるんだもん
ミーーン
それに襲ってくるとしたら夜でしょ？
暗くなる前に帰れば大丈夫よ
そんな保証は——
…



蓋し…
言われてみれば
これまでの状況は…
ミズキ殿
今の意見は
何か保証あっての
ものか？
え？
オバケって
そーゆーものじゃ
ないの？
あ…
ん…
よー
ミズつきー
松川
松川殿か
ヤホー
見つけやすくて
助かるぜ
暑っちーなー
まったく
ミーン
ミイーン
ミイーン


あれ？
松川さっきの授業じゃなかったの？
あのオッサンつまんねえし他の他学部授業に顔出してた
……
余裕ー♪
高ぇ学費払ってポリシーの無ぇ履修したってしょうがねーだろ
う……
やれ年を取ると難しく考えがちだの…
ここは楽観したいところだ…
あ…ところで大町は？一緒じゃないの？
あ……
イ…
あいつはちょっと今日はヤボ用でよ
ふーん
他に授業ないならお昼食べにいく？
かまわねえけどよところで——


アレって
おめーの
知り合いか？
お姉さまぁぁぁ
なんだ
なんだ
花火大会か？
秋葉？……
ああお会いできて
よかったです
祈りと電波を
飛ばした甲斐が！
秋葉さん
なんで
ここに…
何しに？！
ミズキお姉様
こちらのお方は？
あ…えっと
お友達の
松川さん…
初めまして
タイニー
ビューティーな
お姉様！
あ…松川
その子ーー
わたくし
埴安秋葉と
申しまーー
イヤ！



あの…
あ…悪い
女装してんのはともかく真性のヘンタイの臭いがしたもんでよ
え?
女装ってよくすぐに…
お?もしかしてオチ先に言っちまったか?
ほあああ
さすがだのマツ殿…
ふーん
ミーンミンミン…



またおかしなのが増えたなー
はは…
確かに秋葉はおかしいのです
ピョン
ピョン
さっきから動悸が止まらないのです
とべとべ
ピョン
ピョン
これは恋？
いや肉体に刻まれた恐怖であろ
ピョン
ピョン
それにしても爺さまたちまで若返ったのかよ
いっぺん見てみてー
延寿お爺ちゃんはやめたほうがいいよ…
まーいいやメシでも食いにいこうぜ
両手に花です！是非ともに
キャフー
お金ならあるのです！
あ
最低だなこのガキ
わははは


ブオオオ!!
あ？



ま…
松川!?
ブオォン…


何の音…
守衛さん事故だって
ザワ
ザワ
こりゃ大変だ
松川!
ねえ!
あ…
あ…
待って松川
落ち着け!ミズキ殿!
大丈夫だから
すぐに直すから
お姉様!…
事故ですか救急車を…
元にもど…
お姉様!
なによ?文句ある!?
あの車減速しませんでした!
ナンバーも隠してました!
は?
わざとですこれ!
莫迦!……


余計な…
ことを！



え？
消えた…
お姉様!?
クソッ
失敗…！
失敗っ…！
あのクソ餓鬼！



ミズキどの
ミズキどの


なんだ？
なんでとまってるん…
誰だよ！
いつの間に…


ミズキ殿！
それを・・・どうする・・・つもりだ！
あ……
でも…
考えてのことならば止めはせぬ
だが今は――
怒りに身を任せるよりやることがあるのではないか？
うん…
早く…


あー
わかった
わかった
もう大丈夫だって
ポン
ポン
大丈夫?……
痛くない?
大丈夫だけどよ…
とりあえずこら!
はう!
おめー判断が目茶苦茶だ!
あいた~
まず119番!



そして110番だ！
スーパーヒーロかなんかのつもりかおめえは！
ごめん…
それにまた！…
……
…いやきれい事だな
思ったより難しいぜこりゃ
あたしも死にたかなかったしな…
とりあえずありがとな助かった
ヒック…
松川…
でもなんか巻き込んだかも…
ごめん…
ミズキお姉様の責任ではないのです！
着がえ買ってきました！
犯人の正体が判明したのです！
え？

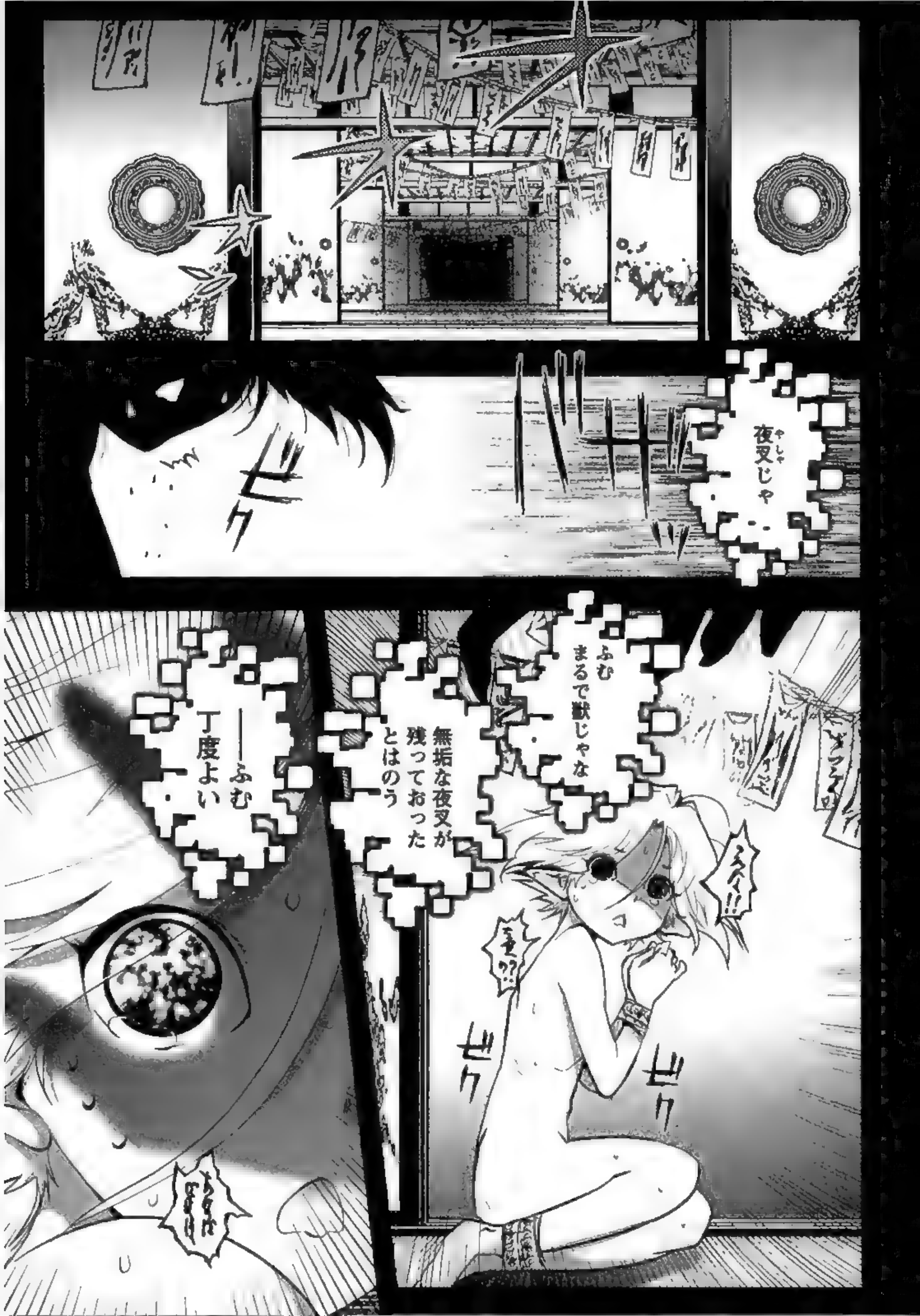


意外な事に
犯人は秋葉の叔父様だったのです
……？
誰？
…秋葉はお婆さまの金庫番となるべく教育されました
何故なら秋葉はとてもお金が好きだったのです
何の話？
ヤな家だな
お婆さまが亡くなる少し前から経理を引き継いだのですが…
あの叔父さまが本家の資産をちょろまかしていたのを発見してしまいまして
即刻返却しない場合は訴えると脅したのです
クズが
そしたらオトナのくせに泣きつくやら逆ギレするやらで家にいると色々とうるさいのでミズキお姉様の家に避難させてもらっていたのですが…
避難？


よもや秋葉をつけ回した挙げ句あんな低脳な手段に出ようとは
逆恨みにも程があるのです
ポス
で？
つまり狙われていたのはこの秋葉！
タイニーお姉様は秋葉と間違えられて狙われたわけで
決してミズキお姉様のせいではありません！
お気になさることはないのです！
殴っていいか？
一応客人ちの娘だし
松川殿の気の済むように
うん
ファサッ
クルクル
あ♡
軋むような愛！
余計な事をしおって


あーー
ご安心下さい！お姉様を害した叔父様は生まれた事を後悔させてやるのです
うふふ
秋葉さんやっと帰ったね…
面倒しか持ち込まぬ奴だの
なんか今日は疲れた…
吾もだ
お休みスザク
うむ
いつまで押さえておけるやら危ういの…
こんな性根で殺人など犯した日にはどう歯止めが狂うかわからぬ
──ミズキです
処女(はつもの)は面倒だの
今日も普通の一日でした
気のせいか？
現実逃避の気配がする
普通ったら普通！

第二十五話／完


夜叉じゃ
ふむ まるで獣じゃな
無垢な夜叉が残っておったとはのう
――ふむ 丁度よい


第二十六話
囚(とら)われのひとたち


ハァッ
ハァッ
ハァッ
ハァッ
ハァ
ハァ
ポテ




?…
ギャン
ギャーギャー
うるさいの…
何事だ
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ハッ
ああ
フクウか
こんな朝早く…
む…
そうでもないか
悪いが
まだ起きる気に
ならぬ
昨晩はミズキ殿の
れぽぉとに
付き合うて
少々夜更かしを
過ごしてしもうての


ふむ
空腹なのか
ハフ
…起きるのも
億劫だ
少々の時なら
勝手に持ってゆけ
ムニャ・
ムニャ
ペロ
ズーー
グッ
ペタ
ペタ
ニキ
ニキ


ピク
ん…
あ…
ギチ
ああ…
気をつけよ
少々勝手が
違うぞ
食い過ぎぬ
ようにな
ドン
ゲプ
?
ビクッ
?
?
ケ〜プ



嫌じゃっ
つっとろうが！
アンタ
覚悟決めたんじゃ
なかったのかい
別に相手が
ヤクザじゃろうが
バケモンじゃろうが
怖かないわい！
ギクッ
このまんまでも
十分じゃと
言っとるんじゃ！
そのまんまじゃ
役立たずだって
言ってんだよ
ヤレヤレ
チム
チム
は…アンタぁ
そのへん
昔っから
ヘタレだねえ
どうせ
カマドさんに
抱きつかれて
オタつくのが
イヤなんだろ
！
……そういう
わけじゃ
チタ
いいから
このバカ
ふんじばって
やっとくれ
カマドさん
よろしいので
ありますれ？
な…


おわっ
やっ…
やめい！
怖くなしにおいでませ～
待て！
せめて人前は！
おい！
?!
わかったわい！
自分で脱…
おうっ!?
?
はれ～


あ？
ん…
あれら～
どう…なっとるんじゃ？
ケプッ
スッキリ
フクかい…
なんじゃ！脱がんでもええんじゃないかい！
じゃったら別に…
なんでまた…
ムサシ…アンタ…フクのこと…
ん？
おお？すまんフク
びっくりさせてすまんのう
ワシがわかるか？
そうじゃ朝飯をやらんとな
ああ…分かってないんだね
…ま いいか


どうせミズキは宵っ張りで朝寝じゃろ
まったくしょうがないのういつもワシが面倒を…
ゴソゴソ
もういいのでありましてございますか？
ああ…ありがとよカマドさん
ムサシ
その体…ちゃんと動かして慣れとくんだよ
……
キュッ
わかったわい！
フン
あとそれから──


あとでいいから そのカッコ用の フツーの服 買ってきな
このまんま外に出ろっちゅうのか！
ガタッ
だから往来でも目立たない服買ってこいって言ってんだよ
そのガタイに合う服ぁ道着しかないんだろ？この侍マニアが
う…
今後のこともあるしね アタシも今度準備しとくさ
押しの利くスーツも仕立てときな
あの不動産屋との話し合いにはアンタが同席すんだからね
気が重いのう
だいたいそんなん延寿の方が向いとるじゃろ
フゥ…
あのバカは毒が強すぎて使い所が難しいんだよ


若返ったアイツを
人の多い場所に
連れてったりしたら
病原菌バラまくような
もんじゃないか
関係無い人たちに
迷惑だろ
昔どんだけ苦労したか
ギャーギャー
キャーキャー
ギャー
ははははは
確かに…
ム…
ンク
ンク
カッカッ
ほれ
水はいるか?
ズイ
コク


しかし
ミズキはまだ
寝とるのか
だらしない
フクを見習え
っちゅうんじゃ
おまえ
かしこいのう
しかし
服か…
今更のう…


探せ
結界の要を探せ
要を……


――ん？
もう ええのか？
さて そろそろ 出かけるか…
あまり 気は進まんが
じゃあなフク
ただいまー
あれ？ ムサシ そのカッコで 出かけんの？
おう！ 行ってくるわい
いい度胸 してるねー


竹刀入れでも抱えたら？手ぶらだと間抜けだよ？
お前が役に立たんからじゃろうが！
ただいま
お邪魔いたしまーす
今のムサシお爺様なんですの？
昔からムサくてね
パタパタ
あらフクちゃんが
ということはミズキお姉様たちは今日はご在宅！
チャーーンス！
何の？


ほほほほほほほ
ニャキーン
ガチャ
あら
お休み中
ですの？
ふーふー♡
寝起きドッキリ
大・性・交
おじゃま
いたしまーすの
ヒヒヒ
ーっん
サイテーだ
若いなぁ
意外と僕
この家の中で
まともな
ほうだよねー
ゴク
ドスン
ドスッ
あへ
バタン
おひー
ドスッ



あーあ
――くっ
信じらんない！
信じらんない！
騒がしいなぁ
見られたー！
何を？
減るもん！
別に実害はなかろう
下着を脱がされるまで目覚めない我が身の油断を反省してはどうだ
お姉様ひどいですの


こんな姿にするなんて……
うるさい！しばらくそのままでいちゃえ！
ああッもとから可愛い秋葉がさらに愛らしく！
これではMI・DA・RAなことができないじゃないですか
もはや何をしても犯罪になってしまいます！
元からほとんど犯罪よ！
寝てる間に脱がすのは準強制わいせつ！
ちーす
おー児童虐待かよ



うむ…確かに混沌ぶりに拍車がかかっているな
だろ？
昼間っから何Pだっつーの
松川大町…
あれ？
まあお初のお姉様が♪
「あれ？」じゃねーよ
夏期課題のシェアの相談するっつってたろーが！
さては忘れておったたな
あ…
キュ


やあ いらっしゃい
おー じいちゃん若返ったんだって?
こちらの初対面のお姉様は?
お爺ちゃんと秋葉さんはもういいから!
パンツ一丁で何言ってんだお前
ワヤワヤ
やあフク
お土産にアイスを買ってきたよ
ギャーギャー
ギャーギャー
元気だったかい?
?



もー…
いーじゃねーか
ギャー
ギャー
おやま 賑やかなこった
楽しげで あられてましまして
ほわ
ザク
ザク
ガラッ
ただいまでありましたれー
おかえりー お疲れさん
今夜はご馳走なのですれば
一緒に買い物?
ついでだよ
ガサ
ガサ
こんな時に町内会の寄り合いもないもんだけどね
花火大会がどうとかさ
へー
カマドさんも連れてったの?
この派手な容姿でご近所の噂になってたからね
海外からの留学生って触れ込んできたよ
なるほど 日本かぶれなカンジで


ちなみにミズキのほうはどう思われてるの？
みんな腫れ物に触るカンジだね
整形したって噂になってるよ…
ああ…
それイキなんだ
この先の事を考えるとなるだけ地味でいたいもんだ
はっはっは
目立つのはしょうがないねー
怪しまれるよりはいいさ
あんたの方はどうだった
秋葉ちゃんにかなりムリしてもらったけどねー
埴安の家には他の領も含めてもう手がかりは残ってなさそうだよ
というより明らかに意図的な抹消の痕跡がある
そうか…ご苦労さん
うん疲れた
じゃ僕自堕落モードに入るから
おっと失礼
あ ども



おや
松川さん？
チョス
ちっす
お邪魔
してまっす
話の邪魔して
すんません
いやもう
済んだとこさ
そっすか…
ええと
バーちゃんに
ちょっと話が
あるんすけど
いっすか
なんだい
改まって
どーうぞ
まず
こないだ車に
轢かれたときの
話で…
ああーー
関係者の不始末で
ほんとに
迷惑かけちまった
申し訳無い
いや…
結局被害は
なかったんで


結局ミズキに・・・助けさせちまって…
アイツにそーゆー事させねーよーに聞いてたのに…
正直助かったとしか思えなかったのがなんつーか…
ほっとしたのが情けねんすよ
当たり前のことさ
何度も言うがウチに関わらなきゃ無かった事故なんだ
アンタらに何かあったら詫びようもない
真面目な話――
ス・・
ありがとうよ
アンタたちがあの子に虚心で接してくれて本当に感謝してる
いやいやマジでやめてください
虚心ってばかりでもねーんす


ちょいと相談もあるんす…
許可っていうか…
なんだい？
先日——
大町のお袋さんが亡くなっちまいまして…
まあ…なんて
そりゃ残念な…お気の毒に…
お悔みも言わず失礼したね
ミズキも言ってくれりゃ
まったく…
それなんすけど…
ミズキには黙ってようって大町のやつが——
ああ……
………
ほんとに気を遣わせちまって…


んで今のミズキにこのテの話はどうかって聞きたかったんすけどね――
アイツをこんな話でハブるのもヤなんで…
あの子はブレっぱなしだ
我が孫ながら無神経な事を言いかねない
大町さんに御礼とお悔やみ伝えとくれ
ありがとうとも申し訳無いとも…
ポス
うーす…
しかし親御さんそんな年でもないだろうに…失礼だけどご病気かい？
いえちょっと事件…事故みたいなもんで
チタ チタ


悪気があってのことではない
わかっておろ
わかってるわよ…
大町殿の前ではきちんとせい
吾と変わるか？
いい
ヒュー!!
ニヤ


ガチャッ
あーっ 秋葉さん大町になにしてるの？
はっはっは
私はかまわないぞ
可愛い女の子に懐かれて悪い気はしない
いや
違うー！違うから！
ひどい！秋葉が可愛くないとでも仰るんですか！
ガタッ
もう！秋葉さん邪魔だから出てって！
きー
結界の要を……
破壊せよ
ハハ……

第二十六話／完


第二十七話
蠢(うごめ)くひとたち


ミーン
ミーン
ミーン
ミーン
ミーン
ミーン
ハッ!
暑い！窮屈じゃ！
心頭滅却しなくらい得意だろ


こんな服で集中できるかったく…
ミーン
セミの声でよけい暑く感じるわい…
……ん？
ミーン
ミーイン
ジワワワワ
ミーインミーイン
どうした
ミーン
なあ…
家(ウチ)の周りでこんなにセミの声聞こえとったか？


今更
気付いたのかい
このボケ侍
んじゃとう！
夏場になって
どんだけ経つと
思ってんだい
今度 補聴器でも
買っときな
んなもん無くても
キサマの嫌味は
毎日よう
聞こえとるわい！
セミだけじゃあ
ない
多分 人間様が
一番ニブいん
だろうさ


なんでホテルのラウンジなんかで…
アイスコーヒー1200円て…
さもしい事を気にするな
昼日中──
適度に人目があって人混みというほどでもなくて
ザワ
ザワ
まあ…少なくともここで敵意は見せないっていう宣言だね
来たみたいだよ
いらっしゃいませ
うーわムサシ似合わないなあ
ムサシお爺ちゃんに直接言っちゃだめだよそれ
二度と道着以外着なくなるから


すぐに
ツレが二人
来るから注文は
あとでいいかい？
かしこまりました
さて
どんなのが
来るんだろ
なにか
分かったら
教えてね
スザクさん
吾はカマドと
違って気配を
読むのが
苦手でな
フクウの
反応の方が
頼りになるのでは
ないか？
フクに
聞けって
わかんないから
いやまて
要約しすぎだ
ミズキ殿
まるで吾が
何もできぬ
ようではないか
来た…
ザワ
ザワ


あんまし考えなかったけどあのチンピラは人間…かな？
考えたこともなかったけど…そうだと思う…よ？
連れのひとは――
フク？――どう？
ホ
ヘ
？
ガサガサ
お待たせしました
こちらが――


ご挨拶は わたくしから
失礼しました
初めまして 宮森様
乙金（おとがね）と申します
ふーん 上玉だ
乙金（おとがね）…さん？
金…
たいして相性が悪いわけでもなし… 特に何も感じぬな


こちらは私も初対面ですがどのような?
親戚の子さ同じ宮森だ
子はないじゃろ
アタシらからすりゃ小僧みたいな年齢さ
ではそちらはお付き添いの方ということで
乙金さんこちらが宮森家の責任者の方です
はい…
さて乙金さんといったかい?
単刀直入に行こうじゃないか


土地バブルなんざ昔話もいいとこなご時世にだ
こちらから言うのもなんだが…あんなどうってことない土地にこだわる理由を聞かせておくれでないかい
ビクッ
ガタッ
はい——
実はわたくし…いえ我々は
宗教法人を営んでおります


ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
あの…乙金さん…座ってお話しませんか
あ はい
はん？新興宗教ってヤッかい
それで？
宗教法人といっても大仰な団体ではございません
教祖様以下数名の従者がいるだけで…一般の方々への布教もありません
それでどうやって成り立ってんだい…
いくつかの企業の方々の篤志によって生業を立てているのです
そして教団は近々引っ越しを考えておりまして…
宮森様がお住まいの土地を教団の新たな住居として購入したいと考えているのです
いやだから


うわ～
変なひと…
リアクションがオーバーなのに棒読みでさ…
ミカサ殿が押されておるとは珍しい
ほーっ
なんでよりによってウチなんだいって聞いてるんだよ
そして…
ズイ
教祖様の占いの結果
現在 宮森様がおられる地所が最適であると託宣が下されました
ぐいーん



は？…
占いじゃと……？
ガタ
そんな取って付けたような理由でひとんちを買おっちゅうんかい！
はい…外界のかたにはさぞ奇妙な理由かとお思いのことと存じますが…
ゴゴゴゴ
我が団体は教祖様の託宣に間違いはないと信じることで成り立っているのです
いや…こじつけるにはうまい理由だ
論理的な理由がないってんじゃ逆に突っ込みようがない
おいババア
コイツ…なんか苦手じゃ…
ドス


旦月さん…だったか
はい なんでしょう
覚えてるかい？
キ
アタシは取引相手に直に会わせろと言ったんだがね
ええ…
この場合 その教祖様とやらが来るのがスジじゃないのかい
教祖様は俗世の財産ややりとりに一切関知されておりません
教祖様は占われただけで実務的な意味でも法的な意味でも宮森様と取引をするのはわたくし乙金でございます
ですからこの乙金
乙金に以後お見知りおきを
ということのようで……


ねえ…なにもわからないの？あれだけ怪しすぎるのに
感覚でわからぬ以上仮定の話にしかならんな
フクも無反応だし…
やっぱりフッーのヒトなんじゃないの？
だから情報が無い以上仮定の話にしかならんのだ
まずは仮定から始める
皆様永らくお住まいの住居に対して不躾なお話なのは承知の上でございます
ですからこちらも誠意としてできうる限りの好条件をご用意させていただきました
土地家屋含め法的評価額の倍額で買い取らせていただいたうえで——
引っ越し先の土地・家屋全てでもこちらで負担させていただく準備がございます
うお
そりゃあ…豪気じゃのぅ
乙金さんそれは…



相手が敵の手のものだと仮定しやれ
アタシの勘じゃ……
間違いなくこいつぁクロだ
イラ
この条件は業者の方に伝えていたのですが…
依頼したこちらの負担をなるだけ最小限に押さえようと気遣いをいただいたようで…
は…
いえ…
敵は我々に情報を渡すつもりは更々無いようだ
その上でのこの茶番だ
ならばこの会合の意味合いは何か
さそかし
敵も我々も正面切って争うのは面倒臭いのであろ
リスク回避のためのギリギリの妥協点を向こうから提示してきた


それはつまり――
ですが条件を小出しにするのはこちらの意向ではございません
最終通告ってわけだ…
今までの事から考えて敵がミズキ殿の実態に気付いている可能性は低い
スザクさんと混同しているのか…希望的観測かもしれないけどね
而して こちらは未だに敵の目的がわからぬ
今の状態でのこちらからの妥協点は――


どのみち皆無だ
先程の内容の他に宮森様のご希望があればあるだけそちらに添うかたちで――
生憎だが――
これ以上足を運ばせるのも悪いんではっきり言っとこう
金や条件の問題じゃあない
この話を受ける可能性はナシだ
あったりまえじゃ！
あそこはワシらが孫に残せる唯一の財さ…！
？
そうですか…



孫?……
気にしないどくれ
こいつぁバカなんで「てにをは」を間違えてんのさ
ギリッ
おおお
お孫様に相続されたことは聞いております
お孫様のご意向は——
シュピ
後見人はアタシだ
アタシらの目の黒いうちはどのみちムダだと思っとくれ
そこの不動産屋に頼みゃもっと安くて便利な場所をいくらでも紹介してくれるさ
さて
過大な条件ありがとうよ
残念です
できれば教祖様とやらに人形を寄越すのはよすよう伝えとくれ
お伝えしておきます


うーん…
僕のイメージは
ポリゴン？
ズゴゴ
よくわからぬが
酷い事を
言っておるのだな？
スザクさん
ウム
わかっておる
よいか
ミズキ殿
なに
この順番
ズズー
あとを
つけるだけぞ
心せよ
もう…
わかってるよ
みんなして
心配性
なんだから


ズズ
今のあたし…
結構すごいのに
ミズキって
こんなに
子供っぽ
かったかなあ
こわい
こわい
万能感って
麻薬だね…
ズズ
ズズ
キュ
キュ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
♪


パパーッ
ザワ ザワ
なんかもっと重たい会議みたいなのだと思ってたのに
なかなかに重量級の試合だったではないか
思うんだけどさ…


ウチなんて売っちゃえばいいのに
ゴゴオオ
あの家古いし広すぎだし不便だし
皆の心意気をなんだと思うとるのだ
お婆ちゃん達ももっと便利なとこのほうがいいんじゃないかな
皆や松川殿を襲った相手にくれてやるというのか？
だから…あそこを渡しちゃえば襲われなくなるんじゃないの？
ミズキ殿まで建前のやりとりに目を奪われてどうする
問答無用で暴力に訴える相手が目的を叶えたうえで素直に金を払う保証があるか？
相手も社会人なんだから契約を反故にしたら訴えればいいじゃない
闇の世界に首まで漬かってまだ言うか
ムー
ハァ…


あたしだって現実知ってるよ？
でも
あたしたち…敵より強いじゃない
ゴオオ…
ゲンナリ…
みんなくらい…あたし一人で守ってみせるもん
オオオッ
あいたた…
ミズキ殿の基本思考からミズキ殿を「人間」として縛る最大の鎖——
「元の体に戻りたい」という希望がいつの間にか無くなっておる…


大町殿の
ことで余計
意固地に
なっておるせいも
あるか…
まったく…
今のミズキ殿の
頭を冷やすには
生半可な
氷水ではダメだの
えらく
人気のないところへ
来ておる…
相手に
気付かれぬよう
気を付けろ
旦月さん…
お疲れさまでした
いえ…
お役に立てず
申し訳ありません
できれば
もう少し
説得の期間を
いえ結構です
…あなた方には
御礼申し上げます


お疲れさまです



え!?
な……?
キラ☆
ごきげんよう


えーと…
どっ
どうしよう
ここは
無視して
あやつを
追うべきだ
べきだが…
今のミズキ殿に
この類の
正しい選択を
させるのは
危険だ！
ゴゴゴゴ
まずは
あの男を
救う！
え？
だって…
逃げられちゃうよ…
うむ…だが…
情報源として…
敵への糸として
価値はある…
が…
そんな理由では
駄目だ


まったく…なぜこのような台詞を…
吾ながら説得力に欠ける
ゴゴゴゴ
人間だぞ！
あうん
でも……このひとは味方じゃないし助ける義理も…
助ける義理？……
義理もなにもない通りすがりのひとは助けたのに？…
ここでこの人を放っておいてもあたしが殺したってわけじゃないけど…
できることとしないことと…
あれ？



ええと…
ここは
考えるところ？
え～～と…
うん…まあ…
死んでいいって
ことはないよね…
あれ
そーだよね
わかった…
うむ……
ザ
ッ
敵の意図に乗り…
弱みを見せ…
下策！
まったく…
泣きたくなるほどの
下策だ！
屈辱…こちらの
事情が足を引っ張って
おるとはいえ…
あの女…
覚えておれ！
ゴゴゴゴゴ

第二十七話／完



カッチ
カッチ
ピク
う…
ここは…?
カッチ
カッチ
カッチ


第二十八話
包囲されるひとたち


ふん
ウ……
起きたか
あなたは…
おおい ミカサ！目ぇ覚ましおったぞ！
タ
うるさいね
ン
うすらでかい声出さなくったって聞こえんだよ！
ただでさえでかい声に拍車がかかってんだからちっとは静かに話しな！
すぐに知らせろっつったじゃろこのクソババア！
……
これは…
いったい？


私が…ですか？
ああそうさ
アンタ乙金とかいう女に殴られて昏倒したんだよ
あんな細っこい女にやられるなんぞ情けないのう
ちゃんと食ってるのか？
は…
殴られ…て？…
ああそうさ
アンタの立場がどうだか知らないが…
大事にするかどうか決めかねたんでウチに運んで介抱してやったってわけだ
それは助かりま…
いえ 丁寧なお気遣いを…
それに服までお借りしたようで…
ドブに体突っ込んでたから着替えさせたんだよ
重ね重ねご迷惑を
う〜〜〜…


捨てちゃって
いいよね これ…
血まみれ
あとで
燃やすのが
確実であろ
お婆ちゃん…
どういうつもり
なんだろ
フゥ
色々と
辻褄の合わぬ
部分を無視して
ウソと恩着せだけ
押しておる
ミズキ殿も
見習え
助けた後
あのまま
放っといても
よかったんじゃ
ないの？
ミカサ殿としては
せめて多少なりとも
情報を引き出し
たいのであろ
なんで
こんなヤツ
助けるんじゃ！
なるほどね…
スザクさん…
仕方ない…
ウチに
連れてきな
？



・・・・・ありがとうよ
まあ・・・
カァ
ミカサ殿が事態を理解してくれておるのが救いといえば救いか・・・
あのようなこわっぱにしてやったりといった顔をさせた事は不愉快きわまりないが・・・
お茶うけ？
たぶん出さないでいいとおもう
ふんま～
ぱりうま～
モフ


自衛のためとはいえ
吾ながら
何をしておるのか…
あのいけすかぬ
坊主に諭された
ひとの道理とやらを
よりによって吾が
他人に説く羽目に
なろうとは
悪い冗談としか
思えぬ
ああ……
好き放題
やっておった頃が
懐かしい…
なんか
見えてるけど
最低
なんだけど
モシャ
モシャ


なんだい スポンサーと揉めたのかい？
まあ結果 交渉に失敗したわけですから
気分を害されても仕方有りません
ふん
インテリヤクザのくせに立場弱いのう
会社員として取引先には逆らえませんから
意味のわからん入墨まで彫っといて何が社員じゃ
ご覧に…なられた？…
なんだい アンタ彫物まで背負ってんのかい
なんやら意味のわからんガラじゃったわい
……いえまあ……


若気の至りでして…
昔
ファッションのつもりでつい…
――どうだ
カマド
はいー
全然
臭いません
のです
食べて
よろしいので
あれして？
ダメ
吾も……
筋者に共通の
血の臭いは
するが…
あれはやはり
人間としか
思えぬ



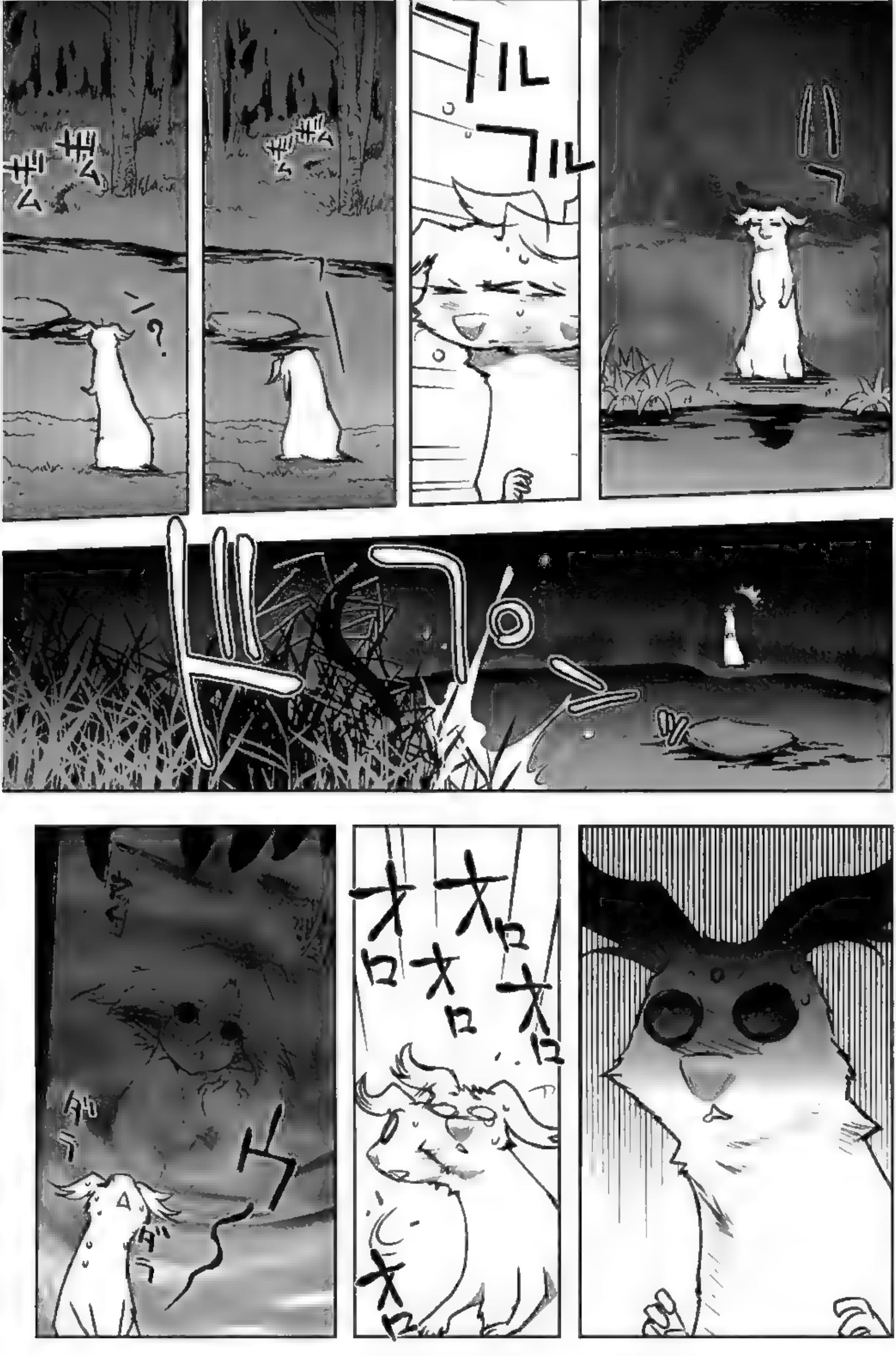
あの乙金とやらもそうだ…人間としか
でもなんか素手でズバッと喉を切ってたよ?
達人?
延寿お爺ちゃんの感想はともかくお婆ちゃんは「人形」とか言ってたしー
意外とスザクそのへんの勘鈍いもんね
否定はせぬ
フフ…
否定はせぬよ
ともあれご迷惑をおかけしました
衣服はクリーニングして返送させていただきます
このお詫びはいずれ——
待ちな
服なんざくれてやるよ
詫びってんなら少しくらいババアの茶飲み話に付き合いな


連中の新興宗教てなどこのなんてとこなんだい
さて…
それくらい言っても構わないだろ
ブン殴られても守秘義務を守るってガラかい？
いえその…そうだと格好いいのでしょうが
実は私も詳しい事は知らないのです
何も知らんっちゅうこたなかろう下っ端じゃあるまいし
あ？
おまえこの交渉の担当者じゃろ
お恥ずかしい話現在下っ端以下なんですよ 私は
仕事先でペナルティをいただいてる身でして
ペナルティ？
なにかドジったんかい
その…少々偉い立場の方のご子息を見習い社員のようなかたちでお預かりしていたのですが…
ウ…
その社員が行方知れずになってしまいまして


覚えておられませんかね？以前一緒にお伺いした若い社員なんですが…
あー思い出した
カマドがつまみ食いしおったあれか
もしかして忘れてた？
キッチリトラウマなんだけど
あの失礼なクズ…いや小僧いなくなっちまったのかい…
あれか…
以前も伺いましたが何かご存じありませんかね
さあね
あのタイプはなにかあっても自業自得だと思うけどさ
たまにお婆ちゃんが怖い
うむ
いやまあそのようなわけで…
パワハラがあったのではとか監督不行届だとか…かなり重く責任を問われまして
消されかけたんかい
ご冗談を
ははは…


まあクビになりかけたのは事実です
今度こそクビなんじゃないかい？
ハハハハ
スイ
使い走りにもならなかったこの有様では…そうかもしれません
はは…
だめだこりゃ
情報が何も無いとはね…
あやつは本当にただの捨て石であったのか？…
あやつを殺したところで吾らを撒けたとはかぎるまいに…
ブツ
ブツ
何も知らないんだったら助けることなかったのに
吾も同意だが…ミズキ殿のドライな発言を首肯するわけにはいかんのだ
く…
ジーー
あのひと早く帰んないかなー
おなかすいたー
つまりどちらでもよかったのか？
布石の一つとして…
ブツ
ブツ
でも姐様ー
あれはウソをついてる目なのでしてたり
は…


モソ
カサッ



ハッ
フル
フル
ン?
ザム
ザム
ザム
ザム
オロ
オロ
オロ
オロ
ダラ
ダラ


トプッ
ガゴボ


ボッ
ドッ
ク…
ヒク…
痛っ
!


フクウか？
何があった！
キュー
なんだい
騒々しいね
ムサシ？
どこいくんだい
こういう
単純なのなら
ワシにも
わかるわい
喧嘩の
空気じゃ
フク！どーしたの？
よくわかんない…！
「俺はやったぜ」的な
負け犬感覚は
伝わってくるけど！
いたた…
よくわからぬが
も少し哀れでない
言葉を選んでやれ


ピンポーン
こんなときに誰だ
延寿お爺ちゃんじゃない？
チャイム鳴らすなんて珍しい
荷物でもあるのかな
トテトテ
待てミズキ殿！
クンクン
姫様ー？
なに？
だって結界があるんだしへんなのが入ってこれるわけないんでしょ
カチャカチャ
臭うのでありましてー
ガラッ
へ？


なんの臭い――

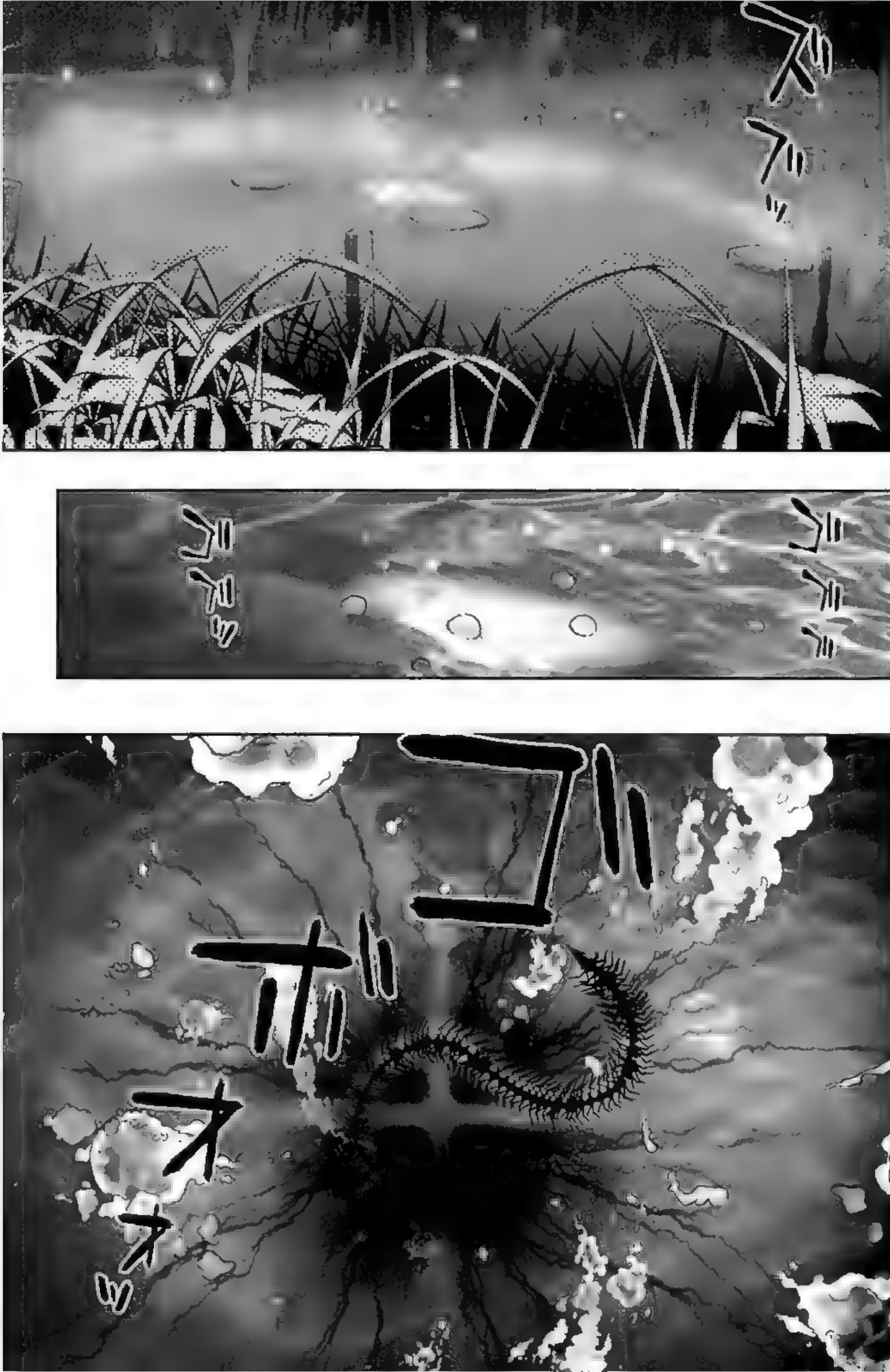

ひゃいな！
うわっ
な…
なんですか？
なっ…
アイツは…
はひん
おしり
われましる〜
こっの…
ギギギ
なんで
ここに！
これは
いったい？
……
まずい！
だめだ
ミズキー！


ガッ
ギリッ


なんで？
どうして入ってきたの？
みんな！奥に隠れてて！
これは…
こんなの一匹くらい今のあたしなら――
ち…！
ミズキ殿待て！
いつも感じていた圧迫感が…消えておる！
！



第二十八話／完


ズブブッ
ゴボオォッ


第二十九話
殺めひとたち
いち……にい
さん…し？


4人も！
どーゆーことよ!?
どうもこうもない
こんな連中が侵入し放題ということは結界をどうにかされたに決まっておろー
あれ？代わるの？
ミズキ殿は駄目だ！
なんで！
デリケエトな戦い方ができぬからだ！
ムゥ


なんか
このひとたち
装備固めてない？
対策
されたのであろ
敵も莫迦ではない
安あがりっ
ぽいのが
ムカつくね
これは…
時の節約だの
なんだの
誤魔化す余裕は
ないの


一気に来くさって せっかちな連中だね 頼むよスザクさん…
おいアンタ…
ん？
カマドさん あの男はどうした？
こわいのであるです 裏口の方へ走っていかれ申しましてです
まあ逃げ足の速い…
どのみち今はかまってらんないね…
見られた件については生きてたら考えるさ
勝手に逃げ切っとくれ
こっちにもかい！
はれらー！
こっちはこっちで…！


ぺッ
はひん！
ムサシ！
他人様んちに
上がるときゃ…


靴を脱がんか！
ふん？
細かく工夫しおって小賢しい！


ふん！
めんどいぞ
こりゃあ
持ち堪えな！
カマドさん！
頼む！
ケンカ〜？
はひら〜〜？
出し惜しみ
してられる
状況じゃない…



お爺ちゃん！
ムサシ殿！
こいつら…人間か!?
おそらく…
ズザ
これじゃ前みたいな器用な真似はできんぞ！
無理は言わぬ
ムサシ殿はこやつらの躰の呪符をなんとかしてくれ
あとはなんとか…


やれやれ
そんなに鈍っちゃあいないつもりだったが…
ウチで若返るのは初めてだが…
スザクさんの言ってた重圧てなこれかい
こんなハンパない圧迫感に気付かなかったなんてね…
いったいいつからウチはこうだったんだ…


いや多分…
ミズキがああなってからか……
とにかく！結界はまだ生きてる！
連中の動きが鈍いのはそのせいだ！
今のウチに結界を元に――
…くそ！結界の中心はどこだい！
こんなことなら若いときに真面目に修行――


まさか…
あんな…化け物ばかり…
あなたが言っていたのはこのことですか
違うぜ
お前はあの乙金って女に殺されたのさ覚えてないのか？
ヤア危ないとこだった
危うく僕までなくなっちまうところだぜ
殺され…あれは夢ではなかったのですか…
なら何故私は生きているんです
ここの連中が生き返らせてくれたのさ
化け物呼ばわりしてねえで感謝してやれよ
夜叉が2匹…いや3…4？
ここはわけわかんねえぜ
意味が分からない…


別に理解しなくていいぜ
僕の言う事を聞けば生き延びてこれたろう?
ええ
ここですか?
ああ ここだ ここだ
こうしないと…私は死ぬと?
ああ・・・みんな死ぬぜ 試してみるかい?
こんな稼業でまた…


化け物に関わることになるなんて…
そういうなよ何度も助けてやったのに
フフ・・
つれないぜ
反吐（ヘド）が出ますよ

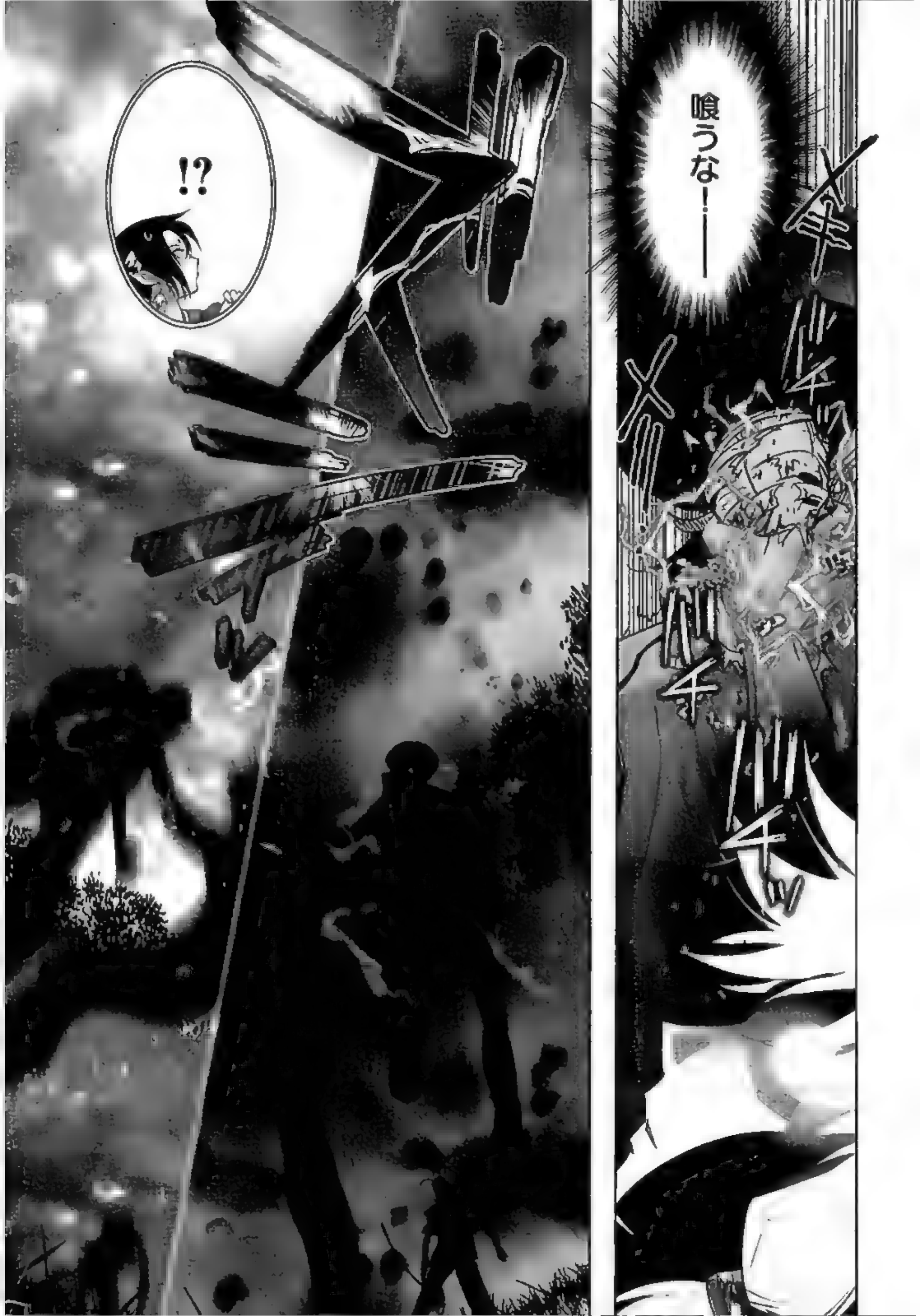

行ったぞ！
てい！
痛っ！
あいたたッ


相変わらず…
ほんの少し時を喰うだけで死体に戻るの
まずは一人！
なんちゅうか…
この戦法はしかし……
うむ 動く相手に薄皮一枚とはムサシ殿流石だの
そういうことじゃなくてね…
なんか絵ヅラがね…


うおっ!?
ズザ
なんじゃ! 全部わしの方に!
ムサシ殿の方をより脅威と判断したのか!?
女の敵認定!?
…少々プライドが傷つくの
それどころじゃ…
あわわ
ぐ!
武蔵お爺ちゃん!



いかん！ミズキ殿！
ミズキ？…
まさか…


喰うな！――
!?


おうっ
ミズキ殿！
え？
あれ!?
結界が…
戻った…
え？
なんで？


ミカサ殿か？
どうして・・・ここに…
あんた…フクに何をした
ここでなにをしてんだい！


……？
は？
ギチ
ギチ
ギチ
ギチッ
結界が……
戻った？
あんた…
何をした⁉
誰です？…
は？
あんたら…
何者だい？…
おいおい
さっきまで
話してた
バアさんじゃ
ねえか



強いて言えば被害者ですよ
もうなにがなんだか…
ほんとうにうんざりです
結界が戻ってよかった～
危ういところであった
いろんなイミで
ムサシ殿…傷を治そう
ビクッ
あ…ああ
こういう…有様なのだ…
おう…腹が据わったわい
？
まあ惜しいぃ！


残念賞ーー♪
ギム
ギム
ギム！



貴様の仕業か！
これは！
はい！
ツメが甘かったですか？
まあ たまたま仕掛けが効いてあわよくばといった程度でしたのでご勘弁ください
ヒラ
ヒラ
チャキ
お考えは変わりませんか？
何がじゃ！
ふざけるな！
とっとと去ね！
この化け物が！
・・・このように夜叉程度ではわたくし共に対抗することはできません
大変です死んでしまいますよ？


……やしゃ？
ムサシ！
お婆ちゃん！
ミカサ！
なんて格好じゃ…！
結界はミカサ殿が？
いや…
まあまあ…やっぱり助かっていたのですね旦月さん
微妙にお役に立って下さって感謝します
どういたしまして乙金さん


……
貴様！スパイじゃったんかい！
スポンサーには弱い稼業でしてね
痛くありませんでしたか？気を悪くなさらないで下さいね
パン！
いえまったく
ここを襲うために私を？
いいえ？これはもののついででして
尾行が鬱陶しかったのでびっくりさせようと思っただけなのです♪
そうですか


ドスッ…


舐めないで下さい
おい！
お前…
何か？
何かって…！
我々は先程明らかに命を狙われていたのではありませんか？
この化け物を生かしておくと私も殺されます
私は死にたくありません
ちょっと待て状況がわからんぞミカサ！
な…
このひと…さっきのの親玉じゃないの？
こんな…あっさり？…
いや…
やはり…



第二十九話／完


ギギァ・・・・
人…間？
お
はは…
そりゃ
そうだよね…
…て…
え？…
人・・・間・・・

第三十話
打ちのめされるひとたち




そうさ
こいつぁタダのニンゲンだな
ほう？そうでしたか
!?
だっ……誰の声じゃ！
目の前で人一人殺しといてシレッと独り言か？貴様！
自分を殺した相手ですよ
正当防衛でしょう
それとも…通報でもされますか？この有様を
ぬ……
「故意犯」…



※刑法改正後は5年以上


事後従犯
ミズキ殿
こやつは吾らに仇なすであろう
だが考えてのことであればよいのだ
考えることを止めてはならぬ
うん…
これは…だめなことだから…
……？



なにか違うような…
ほう？
一体なにを…
…と
何をするんです
やかましい
ただの人殺しがジロジロ見るな
殺すぞ


どっちにしろ面倒だが…
しかたないね…
ふ
ふ
ほほほ
ほほ
は…


ただいま！
服を直しなさいよ！
ありがとうございます！
うるさい！
生き返らせていただきまして
聞きたいことがあるわ


あの…ヘルメットの人たちはあんたの差し金なんでしょう？
どこの誰？
うちの信者の方々です
殺したの!?
いーえー？
みーずーかーらー
ブンブン
死にました♪
あんたたち…
おかしいわ…
全部元に戻すから…連れて帰って！
まあ化け物のようなせりふ！
教祖様は…
…あるじ様はご託宣なさいました！
はい


わたくし達は
死なない！
この夜叉はひとを殺せない！
あなた達は
わたくし達を
殺せない
ドッ
なるほど…私もこうやって…
ですよね♪
やれやれ…
折角 私が片づけたのにこんな面倒な事を…
黙れ…
一番ムカついとるのはワシらじゃ
ワシがぶった斬ってやりたいわい！
そうです！ピンポーン！


このままではあなた方やあなた方のお知り合いが不幸な目に遭うかもしれません
……
…詰みかねん
だが
ミズキ殿の判断を覆すわけにはゆかぬ…
一度でも…力押しを認めた時点でミズキ殿の歯止めは壊れかねぬ…
……じっ…

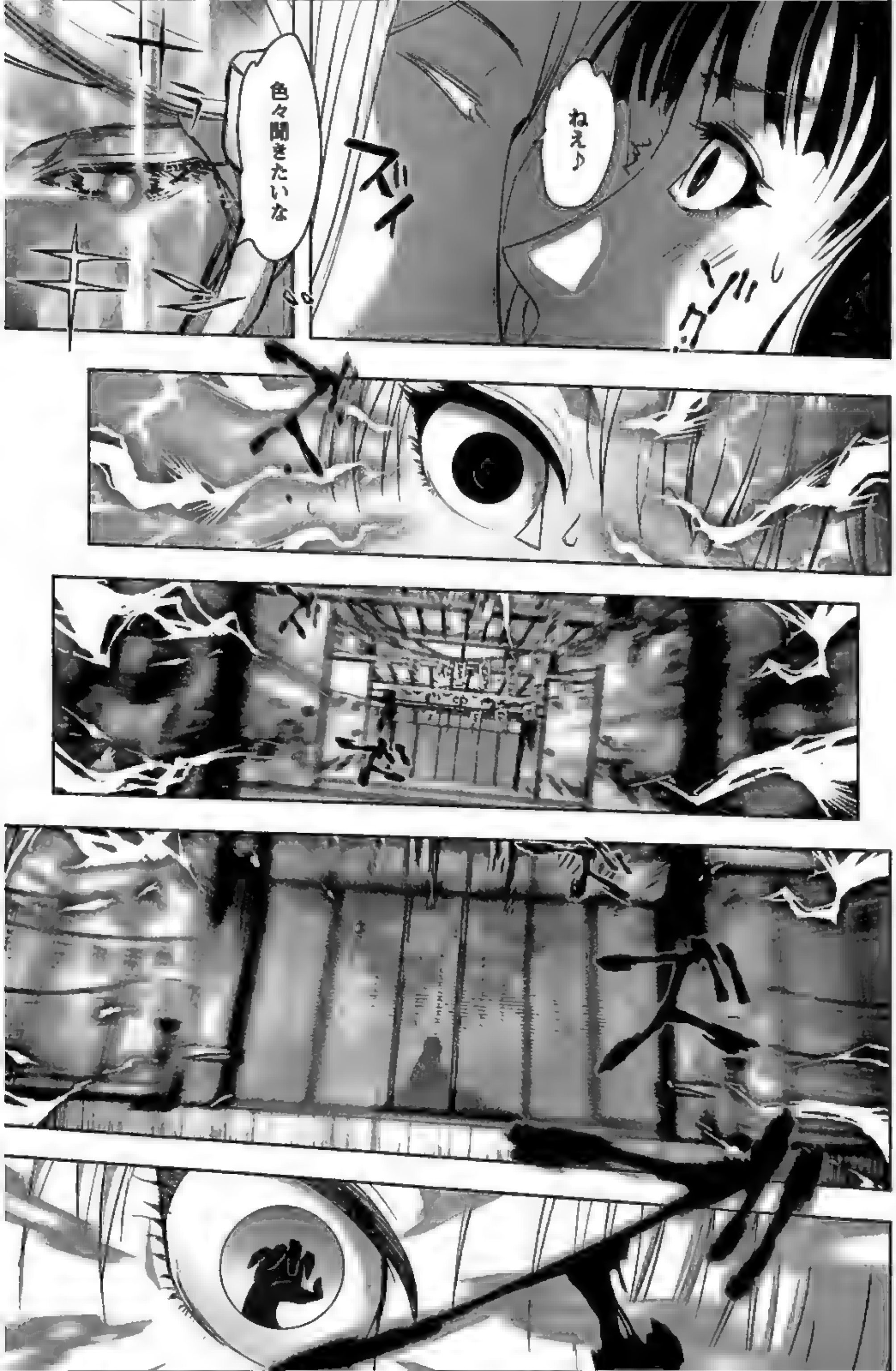

住居不法侵入…
器物破損！
え？……
はい！
これ！
土下座（このとおり）でございます！
どうぞ！世に問うて下さい！
謝罪も補償もお好きなだけ！
そしてお選び下さい？
ここをわたくし達に譲るか
わたくし達を蹴散らすか


どうして……
どうしてこんなとこが欲しいのよ！
よくぞ聞いてくださいました！
それは
此の世を救うため！なのです


あなたがたはご存じ無いのでしょうが——
ここには！
超危険な災いが封じられているのです！


親切で申します♪
お
に
げ
下さい！
わたくし共がなんとかいたしますので
大きなお世話じゃ！
不発弾でも埋まっとるっちゅうんかい
……今日はよく頭の中が真っ白になる日ですね
あなた方も…そんな夜叉が一緒にいるのならおわかりでしょう
それ以上…
言うんじゃないよ…
化け物はいるので……
ツ


可愛気のない女性だなあ
もっと素直になりなよ
延寿！
ったく…遅いよ！
気付かんもんじゃな
びっくりした!!
いきなり歩いてくるんだもん
あ……
そんな毒婦誑かしてしまえワシが許す！
気をそらしてくれてさんきゅ
いーとこ間に合ったみたいだね♪
たたきおこされた
ギュ～


ねえ♪
色々聞きたいな


延寿お爺ちゃん！
いたた…


延寿！
おのれ！
大丈夫ー
まったく
自信無くすなあ
アワ
アワ
妖眼ごときが
気安う
触れるでない


ミジリ
…
ち…
すぐ治すから
いたい いたい いたい いたい
ボクも いたーい
おかしな 夜叉じゃのう…
やれ 面倒じゃ
…一月
一月 くれてやろう
その間に この地を 去るがよい
こやつ…
…違う!…



あんた…誰だい
乙金です！
乙金をお忘れ無く！


なんちゅう日じゃ！
ドガッ
私は…なぜここにいるのでしょう
なんでおるんじゃ！
ソイツもただの人間じゃないのさ正体を吐くまで逃がすんじゃないよ
…被害者なんですけどね
ボクはさっぱり事情がわからないんだよねー
ごめん…なさい…


何を謝っとるんじゃ
えと…
あのひとを… その…
フゥ…
生き返らせたから…
色々…


まあ…
アレをここで始末したとこで解決にゃならないのは確かだ
ザワ
？
？
ミズキ
ト…
アンタがあの女を「生き返らせた」こたぁ正しいこっちゃないさ
けどアタシらに謝るこっちゃあない
ゴクゴク
そして そこの男があの女を「殺した」事は間違ってるんだよ
正当防衛です
やかましい人殺し！
でも…
正解なんてないんだ


だから正しいと思うことを考えるんだ
考えることをやめちゃいけないよ
うむ
今日はもう休みな
さて色々聞かせてもらおうかい
ボキボキッ
なに？拷問？
いえその…基本的な事をお聞きしますが…
今この家にはひとが何人いるんですか？
乙金が言っていたこの地に封じられた「災い」ってな…
やはり…ミズキのことなのか…


いや…
不確定な情報に
踊らされちゃあ
ダメだ
連中の行動には
矛盾がある
必ず
意図的に黙っている
事や嘘がある…
さて――
考えるこた
尽きないね
アタシらに
なにが
できるか――
ミズキの
ために――
博覧祭の
予定は
次は―
芸能ニュース
ハァ…



ミズキ殿
ミカサ殿の言は正しい 刻んでおけ
でも…… どうしたらいいか わかんない
スザク わかる？
吾であれば あの女は かまわず殺す
やっぱ…
あの男も 操られていた 死体共もだ
……
だが人間の理とは違うのであろう？
なんで こんな世間と かけ離れたことで 悩まなくちゃ いけないのよ…
——ニュースです
××区に住む 大町ひばりさん(49)を 強盗目的で 殺害した容疑で 手配されていた——
速報 通り魔殺人事件 手配の男を
被害者 大町ひばりさん(49)


どうした
ミズキ殿
大町って…この名前
大町のお母さん…！
速報
殺人？
どういうこと？
なるほど…
ミズキ殿に気を遣うて黙っておったのであろ
そんな…てっきり病気とか…
そんな思い――
松川に電話して…
逮捕されたのは――住所不定の――
容疑者×××――
容疑者
やめておけ悪気あっての事ではあるまい


それより
気遣われた
理由を己で
考えてだな…
……？
どうした
ミズキ殿？
この……
犯人？
あのときの…
あのとき？


——はおおむね容疑を認めており——
通りすがりの被害者——
金銭目的で——
あのとき…
通りすがりで偶然…
あたしが…助けた…


特にいいことだとも思わなくて
ただ目の前で…ひき逃げなんて気分が悪いし──
なんだか意地になってたし軽い気持ちでなんとなく…
なんとなく──
ギリ…
やれ…
なにか頭を冷やす出来事があればとは考えたが…
これは…
──と供述しているとのことです
次のニュース──
考え……
考える事をやめちゃいけないよ


考え――
どんなに考えても――
取り返しがつかない――
第三十話／完